

I 青果情報

1 10月下旬～11月中旬までの経過

気象 10月下旬は、平均気温は全国的に平年よりかなり高い日が続いた。降水量は、東北、北陸では平年並で、それ以外の地域では多かった。日照時間は、北日本では平年より長く、北陸では平年並だった。それ以外の地域では平年より短かった。

11月に入ると、平均気温は関東・北陸以西で平年より高かったが、北日本では平年並で推移した。降水量は台風が変化した温帯低気圧等により、関東・北陸以西で平年を上回った。日照時間は北陸地方及び東北で平年より長かったが、それ以外の地域は平年並かやや短く、曇りがちであった。

野菜類

入荷量 生育期に猛暑の影響を受けた品目が多く、全般的にまとまった数量が出ず、平年よりも入荷量が減少した。「だいこん」「キャベツ類」は11月以降に主産地となる関東や東海地方において、高温による生育の遅れや病害虫の発生により箱数が伸びず、不足傾向となった。

「きゅうり」はハウス栽培の産地が高温で定植を遅らせたこと、曇天で抑制作が生育不良となったことで11月上旬に端境が生じ、「トマト」も愛知・熊本産が高温と曇天の影響で着果不良かつ小玉傾向となり、11月中旬に入荷量が激減した。

「ねぎ」は、関東産地は欠株の発生や作業の遅れから前年を大幅に下回ったが、増産した北海道及び前年が不作で今作は平年並となった東北を中心に潤沢な入荷となり、全体では前年をかなり上回る入荷量となった。

野菜全体では、10月下旬から11月中旬までの入荷量は113,511t（前年比96.9%）と前年をやや下回った。

相場 価格は、端境等で不足傾向となった「きゅうり」「トマト」「だいこん」「キャベツ」類を中心に、前年を大幅に上回った。

野菜全体では、10月下旬から11月中旬までの価格は296円/kg（前年比112.1%）と前年をかなり上回った。

果実類

入荷量 「みかん類」「かき類」「りんご類」を中心に入荷した。

「みかん類」は愛媛、長崎、熊本、静岡から入荷したが、高温と少雨の影響で前年比の6割程度の入荷となった。「かき類」は和歌山、奈良を中心に、愛知、新潟からも入荷があった。高温、病害虫等の影響で前年をかなり下回る入荷となった。「りんご類」は中心品種が「ふじ」へと移り、前年同様高温による影響がみられ、前年よりかなり少ない入荷となった。

果実全体では、これら中心品目の入荷量が少なかったことにより、10月下旬から11月中旬までの入荷量は31,146t（前年比81.0%）と前年を大幅に下回った。

相場 中心品目である「みかん類」「かき類」が物量なく高値で推移したことで、果実全体では、10月下旬から11月中旬までの価格は496円/kg（前年比116.6%）と前年を大幅に上回った。